

公益財団法人 サントリー芸術財団 音楽事業部

107-6019 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル19階 私書箱509号 Tel: 03-3582-1355 Fax: 03-3582-1350

Nosfa0052 (2022.4.4)

第53回（2021年度）サントリー音楽賞は 濱田 芳通 氏に決定



公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤 剛、鳥井信吾）は、わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた個人または団体に贈る「サントリー音楽賞」の第53回（2021年度）受賞者を濱田芳通（はまだ よしみち）氏に決定しました。

●選考経過

2022年1月10日（月・祝）当財団会議室において第一次選考を行い、候補者を選定した。引き続き2月25日（金）オンラインにて最終選考会を開催。慎重な審議の結果、第53回（2021年度）サントリー音楽賞受賞者に濱田芳通氏が選定され、3月31日（木）の理事会において正式に決定された。

●賞金 700万円

●選考委員は下記の7氏

岡田暁生、片山杜秀、白石美雪、長木誠司、沼野雄司、船木篤也、松平あかね
（敬称略・50音順）

<贈賞理由>

中世からバロック初期までのヨーロッパ音楽は、絶えず外部世界との関係をさまざまな移動の中で保ちながら聖と俗、社会の上下、国や地域といった狭間で変容しつづけていた。濱田芳通が創る音楽は、そうした時代の姿を映し出す。天正少年使節がもたらした音楽に日本の現在の音楽の源流を探り、ペルーに赴任した司教による採譜から南米音楽のルーツを探ることで、音楽のダイナミックな変成と流転の姿をとらえようとする。ヨーロッパ音楽へのグローバルな視点は、豊かな知識に裏付けられながらも、そこから実演へと飛翔する際には最大限の想像力が駆使され、また影響関係のあらゆるネットワークを知悉しながらの思い切った即興性や、一見異分子的な要素の突き合わせが行われる。それによって当時の音楽が思いもよらぬ生々しさと共にせまってくる。

卓越したリコーダー奏者、コルネット奏者でもある濱田は、同様の生々しさを自身の演奏によるヤコブ・ファン・エイクの《笛の楽園》における、愉悦に満ちながらも超絶的な技術の披瀝によっても、より直接的な感覚に訴えて追求しているが、近年のバロック・オペラ上演では、楽譜から得られるあらゆる情報や、楽譜を超えた情報を取り込み、その生まれた時代の想像される環境に作品をふたたび置くことによって、そこに新たな生命力を吹き込み、新鮮な感動を与え続けている。その大胆な演奏形態は世界的な視野で見ても画期的である。2021年に採り上げた《メサイア》では、楽譜資料への深い洞察を踏まえながら、最小限の精鋭アンサンブルと合唱を用いて響きの上でも特筆すべき斬新さを打ち出し、機動性と柔軟性の両面に秀で、即興性、意外性に富んだ驚くべき演奏を披露した。作曲当時の上演習慣に則り、あくまでも作品の核心を突きながらも現代的な感覚での自在を見せ、これまで耳にしたことのない、現代に奔放に息づくバロック世界を創り上げた。それは本賞にふさわしい成果をあげたと評価できる。

(長木誠司委員)

<略 歴>

濱田 芳通（はまだ よしみち） 指揮・リコーダー・コルネット

我が国初の私立音楽大学、東洋音楽大学（現東京音楽大学）の創立者を曾祖父に持ち、音楽一家の四代目として東京に生まれる。桐朋学園大学古楽器科卒業後、スイス政府給費留学生としてバーゼル・スコラ・カントールムに留学。リコーダーとコルネットのヴィルトゥオーゾとして国内外にて数多くの演奏活動、録音を行い、海外でリリースされたCDは全てディアパソン5つ星を獲得、高い評価を受けている。2013年バロック・オペラ上演プロジェクト〈オペラ・フレスカ〉を立ち上げ、指揮者としてモンテヴェルディの3大オペラ《オルフェオ》《ウリッセの帰還》《ポッペアの戴冠》、カッチーニ作曲《エウリディーチェ》（本邦初演）、ヘンデル作曲《ジュリオ・チェーザレ》、レオナルド・ダ・ヴィンチが関わったとされる劇作品《オルフェオ物語》（本邦初演）等、オペラ創成期からバロックに至る初期のオペラ作品を取り上げている。一方、戦国時代にヨーロッパから日本へ伝わった南蛮音楽の研究もライフワークとしており「天正遣欧少年使節の音楽」「エソポのハブラス」「フランシスコ・ザビエルと大友宗麟」等のテーマによりCDリリース、芝居付き演奏会を行っている。

著書「歌の心を究むべし」（アルテスパブリッシング）

古楽アンサンブル《アントネッロ》主宰

－受賞歴－

- 2005年 第7回 ホテルオークラ音楽賞
- 2015年 第28回 ミュージック・ベンクラブ・ジャパン音楽賞
(室内楽・合唱部門)
- 2015年 第14回 佐川吉男音楽賞
- 2019年 第6回 JASRAC 音楽文化賞
- 2020年 第50回 ENEOS 音楽賞 洋楽部門 奨励賞
- 2020年 第17回 三菱UFJ 信託音楽賞 奨励賞

以 上

(ご参考)

サントリー音楽賞について

公益財団法人サントリー芸術財団では、1969年(昭和44年)の鳥井音楽財団設立以来、わが国における洋楽の振興を目的として、毎年、その前年度においてわが国の洋楽文化の発展にもっとも顕著な功績のあった個人または団体を顕彰し、「サントリー音楽賞」(旧名・鳥井音楽賞)を贈呈しています。賞金は700万円です。

これまでに「サントリー音楽賞」を受賞した方々は下記の通りです。

第1回	1969年度	小林 道夫 (ピアノ・チェンバロ・指揮)
第2回	1970年度	堤 剛 (チェロ)
第3回	1971年度	三谷 礼二 (オペラ演出)
第4回	1972年度	小川 昂 (理論・評論)
第5回	1973年度	ICUオルガン委員会 (国際基督教大学)
第6回	1974年度	秋山 和慶 (指揮)
第7回	1975年度	栗林 義信 (声楽) 山根 銀二 (評論)
第8回	1976年度	芥川 也寸志と新交響楽団
第9回	1977年度	常森 寿子 (声楽)
第10回	1978年度	松村 禎三 (作曲)
第11回	1979年度	吉原 すみれ (打楽器)
第12回	1980年度	妹尾 河童 (舞台美術) 特別賞 江戸 英雄 (第1回日本国際音楽コンクール会長)
第13回	1981年度	柴田 南雄 (作曲)
第14回	1982年度	外山 雄三 (指揮) 特別賞 原 清 (ザ・シンフォニーホール建設グループ代表)
第15回	1983年度	鈴木 敬介 (オペラ演出)
第16回	1984年度	豊田喜代美 (声楽)
第17回	1985年度	日本テレマン協会 (室内管弦楽団・合唱団)
第18回	1986年度	内田 光子 (ピアノ) 若杉 弘 (指揮)
第19回	1987年度	岩城 宏之 (指揮)
第20回	1988年度	林 康子 (声楽)
第21回	1989年度	有田 正広 (古楽演奏)
第22回	1990年度	武満 徹 (作曲)

第23回	1991年度	尾高 忠明 (指揮)
第24回	1992年度	練木 繁夫 (ピアノ)
第25回	1993年度	五嶋みどり (ヴァイオリン)
	特別賞	ウォルフガング・サヴァリッシュ (指揮)
第26回	1994年度	和波 孝禧 (ヴァイオリン)
第27回	1995年度	今井 信子 (ヴィオラ)
第28回	1996年度	園田 高弘 (ピアノ)
		湯浅 譲二 (作曲)
第29回	1997年度	東京交響楽団
第30回	1998年度	林 光 (作曲)
第31回	1999年度	三善 晃 (作曲)
第32回	2000年度	飯守泰次郎 (指揮)
第33回	2001年度	一柳 慧 (作曲)
第34回	2002年度	小澤 征爾 (指揮)
		木村かをり (ピアノ)
第35回	2003年度	野平 一郎 (作曲、ピアノ)
第36回	2004年度	西村 朗 (作曲)
第37回	2005年度	鈴木 秀美 (チェロ・指揮)
第38回	2006年度	東京混声合唱団
第39回	2007年度	細川 俊夫 (作曲)
第40回	2008年度	小山 由美 (声楽)
第41回	2009年度	大野 和士 (指揮)
第42回	2010年度	渡邊 順生 (チェンバロ)
第43回	2011年度	該当者なし
第44回	2012年度	藤村 実穂子 (声楽)
第45回	2013年度	鈴木雅明とバッハ・コレギウム・ジャパン
第46回	2014年度	広上淳一と京都市交響楽団
第47回	2015年度	トッパンホール
第48回	2016年度	小菅 優 (ピアノ)
第49回	2017年度	読売日本交響楽団
第50回	2018年度	高関 健 (指揮)
第51回	2019年度	河村 尚子 (ピアノ)
第52回	2020年度	三輪 眞弘 (作曲)
特別贈賞	1979年6月	巖本真理弦楽四重奏団
〃	1997年8月	黛 敏郎 (作曲)

以 上